

## 令和2年度 大阪学院大学高等学校 学校評価

### 1 めざす学校像

#### 《教育方針》

本校は、開校以来、学校法人大阪学院大学建学の精神である『視野の広い実践的な人材の育成』を理念として、将来、希望する高度な専門分野へ生徒を導くために、高校時代に身に付けておかなければならない「現代社会に必要な基礎学力の習得」に主眼を置いた実践的な教育を行う。また、人格の基礎をつくる躰と情操教育に加え、一人ひとりの個性や能力を尊重し豊かな人間力を素養とした教育を目指している。

#### 《特色》

本校は、学校法人大阪学院大学高等学校教育部門として、迫りくる社会生活への対応能力や人間性を高めるうえで重要な役割を担っている。  
本校の大きな特色は、大学院を擁する8学部9学科（短期大学部を含む）からなる大阪学院大学と、2つの専門学校（関西経理専門学校、関西医科専門学校）で構成されているASTカレッジが併設されており、幅広く社会に対応出来る進路が保証されていることである。そして、決して他校ではまねることができない高大7年一貫教育（短期大学部は5年）、ASTカレッジとの5、6年一貫教育は、「チーム大阪学院」として胸を張って生き生きと人生を謳歌できるシステムといえとともに、本校の大きな強みである。  
この強みを活かして次のような特色づくりを行っている。

#### 【教学面】

総合学習の一環として探究学習に取り組んでいる。より実践的な教育効果を得るために、施設利用や講師をお招きして、本校の大きな特徴である併設大学である大阪学院大学、ASTカレッジ専門学校との協働を行い生徒のキャリアデザイン構築に取り組んでいる。  
各教科において受動的学習環境からの脱却を図るため、ICT（タブレット）をフルに活用し、より能動的な学習の提供に努めている。  
また、コロナ禍において、緊急事態宣言中は50分から45分授業に変更して、学習効果の効率化を図っている。

#### 【生活面】

2020（令和2）年4月新校舎移転を機に、朝のロングホームルーム（LHR）を廃止し、校舎に設置されている複数のサイネージや手持ちのタブレットを介して諸連絡を伝えるようにしている。このことにより、生徒自らが積極的に情報収集に努めなくてはならないことから「自己責任と的確な判断力」を養うことが期待できる。

#### 【学校活動】

コロナ禍の中で学校教育活動に大きな制限がかかり、生徒の教育機会が減少している。  
本校では、学校行事も直ぐに中止にするのではなく、時期をずらしながらできる限り実施の方向で考え対応している。クラブ活動にも制限がかかる中、感染予防対策の徹底と時短、許可制で国や大阪府が定めたルールの範囲内で活動を認めている。そのような状況下であるが、弓道、日本拳法、男女ゴルフ、チアリーダーの各部が全国大会出場、サッカーAチームは1部リーグ優勝と好成績を収めている。これら部活動や生徒の活躍は、全校生徒にも知らせ、また職員朝礼でも紹介して大阪学院として応援している。本校生徒の活躍をみんなで応援することで「愛好心と帰属意識、そして一体感」を育むことができると感じている。

### 2 中期的目標

#### 1 学習指導について

- (1) 授業開始時間を厳守する。
- (2) 授業中の態度の改善
- (3) 基礎学力の定着と向上
- (4) 成績不良者、低学力者などに対する指導を徹底する。

#### 2 生活指導について

- (1) 遅刻者数を減少させる。
- (2) 携帯電話の使用マナーの向上に努める。
- (3) 処分者数の減少に努める。
- (4) 登下校のマナー指導に努める。

#### 3 進路指導について

- (1) 基礎学力の向上
- (2) 高大接続の充実
- (3) キャリア教育の推進・充実

#### 4 人権教育について

- (1) 各学年別に学外講師を招き、講演会を実施する。
- (2) 全校生徒に人権に関連した映画鑑賞を実施する。
- (3) 学校生活やいじめについて調査をし、より良い学校生活ができるように取り組む。

#### 5 保健について

- (1) 健康診断後の、精密検査・再検査未受検者を減少させる。
- (2) 保健室の利用状況を把握する。
- (3) 保健だよりを定期的に発行する。

#### 6 施設・設備について

- (1) 教育環境の充実に努める。

【自己評価アンケートの結果と分析】

自己評価アンケートの結果と分析  
生徒アンケート [令和2年12月実施分]

○生徒アンケート

「教育活動全般に関わる質問調査」 令和2年12月実施  
全校生徒に対し、別紙23項目について無記名による回答として実施した。  
※アンケート結果については別紙にて報告。

アンケートの結果としては、例年と大差のない結果となっているが、「9. 本校の事務室は、証明書や奨学金等事務手続きについて、的確かつ丁寧に対応してくれていると思う。」、「11. 本校は基本的な生活習慣の定着や社会のルールを守ることがをしっかりと指導していると思う。」、「21. 本校は、校舎や校庭、グラウンドなどの施設設備が整っていると思う。」、「22. 本校でこれからも長く付き合い信頼できる友達ができ。または、出来るだろうと思う。」については、肯定的評価（アンケート結果で「そう思う」、「おおむねそう思う」の評価）が70%を超えており、他の項目と比べて高くなっている。また、「16. 校外学習」や「17. 球技大会」、「18. 体育大会」、「19. 文化祭」等の学校行事に対する項目や「12. 本校は生徒の健康や安全、命の大切さに関する指導をしっかりと行っていると思う。」、「23. 本校で充実した学校生活を送っている。」等についても、肯定的評価が比較的高くなっている。

一方で、「6. 本校には分かりやすい授業を行ってくれる先生が多いと思う。」や「7. 本校には各教科の基礎・基本の習得を図り、進路実現に対応できる学力を身に付けさせてくれる先生が多いと思う。」という授業に関する項目や「10. 本校には自分の成長に効果があると思える取り組みが多いと思う。」、「13. ホームルーム活動では、生徒が自主的に取り組み、互いに協力して活発に行っていると思う。」という将来の進路設計等、生徒本人に関する項目については、全体的に肯定的評価が低くなっている。

○保護者

本校では、教育活動の充実や行き届いた生徒指導を行うため、学校と保護者が緊密な連携をとり、本校後援体制のより一層の強化を図ることを目的として、平成16年度から後援会組織と協力の上、保護者の学級委員を各クラスから選出し、同委員取りまとめによる保護者のクラス会を開催している。クラス会では、保護者同士の親睦を図ることを前提として、色々な場面や雑談の中で出てくる意見などを同委員が取りまとめ、これを学校と後援会組織で検討し、可能なものは前向きに対応していくという形式を取っている。これは、保護者皆様が不安に思っていることや生徒指導上の問題点等の早期解決と学校のより良い方向性を見出すことに役立っている。

クラス会で出た意見等に関する対応状況の報告会は毎年行ってきたが、今年度は新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、クラス会の実施を自粛したため報告会も開催できなかった。

（例年報告される項目は以下のとおりです。）

- ・ 内部進学（併設大学）に関する事について
- ・ 進路の幅を広げて後押ししてほしい。
- ・ 英検の推進とそれに関する補習をお願いしたい。
- ・ 保護者だけの併設大学見学会を開催してほしい。
- ・ 配付文書に関する事について
- ・ 地震等、災害発生時の授業に関する連絡方法について
- ・ 制定品や服装規定に関する事について 等

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 学習指導について	(1) 授業開始時間を厳守する。	(1) ア 各教員が始業チャイム前には教室に入室する。 イ 授業の重要性や時間を守る大切さなどを説明指導する。	(1) アイ 教員が、始業チャイム前に教室に入室できていたか。 アイ チャイムと同時に授業を開始できていたか。 アイウ 生徒アンケートの質問11「本校は基本的な生活習慣の定着や社会のルールを守ることをしっかり指導していると思う。」の肯定的評価が70%以上。	(1) [O] アイ 多くの教員が始業チャイム時には入室できていたが、全教員が入室できる努力が必要である。 イウ 2学期以降、授業準備が疎かになる生徒が数名いるが、おおむね良好である。
	(2) 授業中の態度の改善	(2) ア すべての生徒が、すべての授業に前向きに取り組む姿勢を養う。 イ AL、探究学習等を取り入れ、授業内容を充実させる。 ウ 担任や教科担当教員が授業の重要性などを根気よく説明指導する。	(2) 生徒アンケートの質問20「教室内の雰囲気、環境は快適であると思う。」の肯定的評価が70%以上。	(2) [△] アウ 授業中の巡回を増やして効果がみられたが、教科担当教員とのさらなる連携が必要。 イ ICTを活用した授業が増加し、生徒が主体的に授業に参加する姿が多くみられた。探究学習において、企業等外部の人の話を聞くなど、探究を深めることができた。
	(3) 基礎学力の定着と向上	(3) ア ICT教材の導入で、学習習慣をつける。 イ 宿題を定期的に出して、家庭学習時間を増やす。 ウ 苦手単元などを振り返り、取り組ませる。	(3) アイ 宿題を定期的に出すことができているか。 アイ 宿題の取り組み状況がよくなっているか。 ウ 学習への取り組みがよくなっているか。	(3) [△] アイ ICT教材を用いた宿題配信を行い、一定の効果はあったが、提出しない生徒に対して、最後まで取り組ませる仕組みを検討する必要がある。 ア スタディサプリの内容を定期考査に取り入れる科目が出てきているがまだ不十分であり、さらなるスタディサプリの活用が課題である。 イウ 取り組み状況の良い生徒に対しての声掛けを継続する必要がある。
	(4) 成績不良者、低学力者などに対する指導を徹底する。	(4) ア 各教科担当者が、成績不良者を出さないという姿勢で指導する。 イ 該当生徒には積極的に声をかけ、理解度を把握し、丁寧な指導を心がける。	(4) 各学期の欠点者の人数が減少したか。	(4) [△] ア 成績不良者と保護者に進級・卒業に関する説明会を、2・3学期の期末考査前に開催し、学習意欲の喚起を行い、成績不良者を減らすことができた。 アイ 放課後の定期的な強制補習の検討が必要である。

2 生活指導について	<p>(1) 遅刻者を減少させる。</p> <p>(2) 携帯電話の使用・携行品指導を徹底する。</p> <p>(3) 処分者の減少に努める</p> <p>(4) 登下校のマナー指導に努める。</p>	<p>(1) 遅刻者に対しては、遅刻理由を丁寧に聞き取り、生徒本人に改善法などを考えさせ、繰り返しの遅刻防止に努める。</p> <p>(2) 校内放送や生活指導部専任教員による教室巡回により、注意喚起を頻繁に行う。</p> <p>(3) 特にSNS関係の処分者を減少させるため、情報管理室と協力し、生徒たちのモラル向上に努める。</p> <p>(4) 登校時の駅から学校及び自転車通学路に教員を配置し、挨拶とともに広がって歩く生徒などに対し指導を行う。</p>	<p>(1) 過去5年分の各学年の遅刻者数と比較し減少したか。</p> <p>(2) 携帯電話関係の処分者数を過去と比較し減少したか。</p> <p>(3) 過去の処分者件数と比較し減少したか。</p> <p>(4) 近隣住民の方からの苦情が減少したか。</p>	<p>(1) [△] 例年遅刻者は、学年が上がるにつれて増える傾向があったが、昨年は3年生の指導を強化したため3年生は減少したが、1・2年生の遅刻者が増加することとなり、全体的な数字は減少したが、指導面での課題が残った。 目標達成のためには家庭との連絡を密に取りながら、生徒に対して根気強く指導することが必要である。</p> <p>R2 5,654名 R1 5,810名 H30 4,265名 H29 4,670名 H28 5,466名</p> <p>(2) [O] 校舎の移転を機に、授業で携帯電話を使用する機会が増えたため、携帯電話に関する指導を授業中の無断使用のみとした。多少の処分者は居たが、校内での携帯電話の使用マナーについては、概ね守られている。 [R1 119件]</p> <p>(3) [O] R1 63件 → R2 36件 今年度は今まで以上に全教員でトラブル回避のために注意喚起と対策を行ったため、SNS関係の処分者数だけでなく、全体としても大きく減少した。しかしながら、2学期になり授業中の携帯電話の無断使用が目立ってきたため、今後も厳罰を強化するより、生活指導部だけでなく全教員での注意喚起を増やすことを考えたい。</p> <p>(4) [△] 校舎移転に伴い、生徒の通学路等について近隣自治会等と検討を重ねたが、通学路の遵守や登下校時のマナーについて多少の苦情はあったため、引き続き、登下校時のマナー指導等の注意喚起を行っていきたい。</p>
---------------	--	--	---	--

3 進路指導について	<p>(1) 基礎学力の向上</p> <p>(2) 高大接続の充実</p> <p>(3) キャリア教育の推進・充実</p>	<p>(1) 第1・2学年 オンライン授業を活用し、生徒自身が自主的に目標を持って学習する。</p> <p>(2) ア 2・3学年 希望者及び内部進学予定者に対して特別科目の履修を実施する。 ※これは大学生に交じり大学の授業を受けるものであり、単位が認定された場合、併設大学の卒業要件単位数に計上することができる。</p> <p>イ 3学年 併設大学教員との交流の場となる「語り場」を実施</p> <p>(3) ア ホームルームや総合の授業において、大学・専門学校の広報担当者による進路ガイダンスを各学年の状況に応じて実施する。 第1学年 将来の就職を考えて 第2学年 学部・学科について 第3学年 各大学の特色について</p> <p>イ 手作り教材等を通じて、進路決定と将来の目標や働くことの意義を理解させる。</p>	<p>(1) 受講のチェック・到達度テストの実施</p> <p>(2) ア 受講者の成績及び内部進学率 イ 生徒の満足度と大学教員の評価と内部進学率 イ 内部・外部の進学率が上昇したか。</p> <p>(3) ア イ 大学・専門学校・就職などの進路を主体的に決定できたか。</p>	<p>(1) [O] コロナ休校(4月～5月、6月隔日登校)がある中、オンライン授業を展開しICT化が促進された。とはいえ、担任・教科担当者の細かなチェックと丁寧な指導が必要である。</p> <p>(2) [×] ア 高大接続の入学前教育への参加率、成績はかなり良好であった。 イ 対面での「語り場」の評価が高かった。時期・内容の精査を行い次年度も実施したい。 ウ ※併設大学進学者数と進学率 R2 160名 38.9% (R1 167名 47.0%) ※大学・専門学校進学率 R2 91.2% (R1 93.2%)</p> <p>(3) [△] 進路に対する姿勢や考え方が前向きになった。今後は講演会などの実施できるように計画したい。 ※今年度使用した教材 手作り教材「進路のしおり(合格体験記)」</p>
---------------	---	--	--	--

<p>(1) 各学年別に学外講師を招き、講演会を実施する。</p> <p>(2) 全校生徒に人権に関連した映画鑑賞を実施する。</p> <p>(3) 学校生活やいじめについて調査をし、より良い学校生活ができるように取り組む。</p>	<p>(1)</p> <p>ア 1学年については、高校生になり携帯やネットでの友人関係の構築がはじまることから、インターネットやSNSに関する講演を行い、講演後にはアンケート・感想文を実施する。</p> <p>イ 2・3学年においては生徒の成長に合った課題として、自分を大切にすること、他人を大切にすることの必要性を考えさせることを目的とした講演を行い、講演後には、アンケート・感想文を実施する。</p> <p>(2)</p> <p>映画鑑賞実施後には感想・アンケートを実施することで、内容が定着し生徒の印象に残るように努める。</p> <p>(3)</p> <p>ア 学校生活・人権などの意識調査を2回実施する。(1学期と2学期に各1回)</p> <p>イ 調査結果を活用するため、いじめ防止委員会および教員対象の勉強会を開催し、全教員でいじめと不登校の防止に取り組む。</p>	<p>(1)</p> <p>各学年の課題に応じた適切な講演者を選定し、講演会を実施したか。</p> <p>(2)</p> <p>人権に関する映画鑑賞の実施と実施後の感想が好評であったかどうか。</p> <p>(3)</p> <p>教育活動全般に関する質問調査の質問23「大阪学院大学高等学校で充実した学校生活を送っている」の肯定的評価が60%以上。</p>	<p>(1) [O]</p> <p>ア 1学年 開催日：2021年2月13日(土) 内容：「インターネットと人権について」 講師：大阪法務局人権擁護部</p> <p>イ 2学年 開催日：2021年1月9日(土) 2021年2月6日(土) 内容：「互いのところとからだを尊重しよう」(デートDV防止対策) 講師：伊田広行氏(立命館大学 非常勤講師)</p> <p>イ 3学年 開催日：2020年10月3日(土) 2020年11月7日(土) 内容：「性的マイノリティ(LGBT)についての知識を学ぶ」 講師：川西寿美子氏(NPO アカデミックハラスメントをなくすネットワーク NAAH 理事)</p> <p>本校でも携帯電話(SNS等)などの間違った使用による生活指導の案件が増加しており、今後も1学年時にしっかり指導を行う。 2・3学年においては、今後は講演以外でも各種資料を配布し、生徒の自覚を促す。</p> <p>(2) [O] 題目：「グリーンブック」 実施日： 1学年 2020年11月26日(木) 2学年 2020年11月25日(水) 3学年 2020年11月13日(金) 映画鑑賞後、LHRで全員に感想文を書かせ、その内容も概ね好評であった。また今年度も生徒の意見(抜粋)を発表するなど、結果を還元することもできたため、次年度以降も継続していきたい。</p> <p>(3) [O] 今年度は肯定的な評価が66.3%と昨年度(68.6%)からは少し減少したので、次年度は更に向上できるよう、教員の意識を更に伸ばし、意識調査の結果を詳細に分析していく。</p>
--	--	--	---

5 保健 に つ い て	<p>(1) 生徒の適切な保健室利用の管理</p> <p>(2) 「保健だより」の定期的発行と掲示等</p> <p>(3) 感染症予防対策の実施</p>	<p>(1) 無用な来室者を減少させるとともに、保健室本来の病気やケガの生徒に対する対応を行う。 ア 生徒が授業中、保健室を利用する際は「保健室利用許可証」を持って来室させ、許可証の無い生徒は教室に戻させる。 イ 保健室の利用について原則1日1時間を徹底する。 ウ 保健室内での飲食禁止、携帯電話の使用禁止を徹底する。</p> <p>(2) 「保健だより」のHP掲載、教室掲示、生徒への配布等を通して、生徒に対する保健指導や日常生活、健康上の注意喚起を行う。</p> <p>(3) ア 「保健だより」による感染症予防の啓発を行う。 イ 校舎内複数個所へのアルコール消毒液の設置等を通じ、感染症予防の意識向上に努める。</p>	<p>(1) 無用な来室者の減少と、病気やケガの生徒への対応に注力できたか。</p> <p>(2) 「保健だより」を定期的に発行・掲示できたか。</p> <p>(3) ア イ 感染症予防対策を実施することで生徒の意識や行動の変化がみられたか。  教育活動全般に関する質問調査の質問12「本校は生徒の健康や安全、命の大切さに関する指導をしっかりと行っていると思う。」の肯定的評価が60%以上。</p>	<p>(1) [○] 授業中の利用については、許可証の発行が必要なことや授業担当者の指導により、些細な理由で保健室を利用する生徒が減少した。日本学校保健会の「保健室利用状況に関する調査報告書(平成30年発行)」によると、高校生の1日平均保健室利用者数が全国では20.0人であるのに対し、本校は11.5人と大きく下回っており、保健室の健全な利用ができていと考えられる。次年度より新校舎への移転に伴い保健室の場所を周知するとともに、引き続き利用方法の徹底することにより保健室を健全に利用できるよう努めていく。</p> <p>(2) [○] 年度初めの予定通り、本年度はほぼ毎月のペースで発行することができ、HP掲載や教室掲示等で視覚的に生徒に働きかけることができた。次年度も継続して発行し、生徒たちの健康面、生活面のサポートに努める。</p> <p>(3) [○] 保健だより新型コロナウイルスをはじめとする感染症への予防策を掲載し、感染症予防の啓発を行うことができた。 体育授業後、また校舎に入る時など、多くの生徒がアルコール除菌を行っている姿が見られ、感染症予防への意識向上がはかれたと考える。今後も更なる感染症流行に備え、各自が予防策を実行できるよう努めていく必要がある。</p>
6 施設・設備 に つ い て	<p>(1) 教育環境の充実に努める。</p>	<p>(1) ア タブレット型PCを導入し、授業等で活用できる環境を整備する。 イ ICT教育に関する教員対象の勉強会を実施する。  本校のICT教育環境の整備については、施設的には旧校舎の耐震対応にも大きく関係する問題であったが、2020年4月に新校舎へと移転したことにより、経年的に全生徒へのi-Padを携帯させ、授業等でも活用できる環境が整備された。今後は全教職員を対象とした「ICT推進勉強会」を実施し、教員全体の意識改革も同時に行う。</p>	<p>(1) ICT教育環境の整備と教員に対する勉強会が実施されたか。</p>	<p>(1) [○] ICT教育環境の整備については、新校舎への移転に合わせて整備が完了し、今年度はコロナ禍の中、オンライン授業の作成や配信に活用することができた。昨年までに教員勉強会などを実施してきたことに対する結果が少し現れたように感じる。 今後は次の段階として、通常の授業においても、i-Padを活用した授業展開を行っていきけるよう、全教育職員のスキルアップや更なる教育環境の充実に努めていきたい。</p>